

GAP

品質向上と顧客の信頼確保のために

GAP*(ギャップ)とは

準備から出荷までのすべての農業生産活動を繰り返し見つめ直し、リスク(危害や事故が起きる恐れ)への対策を行うことで、「農産物の安全確保」や「環境への配慮」といった良い農業を確実に実践することです。

*「Good(良い)」「Agricultural(農業の)」「Practice(実践)」の頭文字を取った略語

なぜ今GAPなのか

「安全です」と言うだけでは、消費者は安心できなくなっています。

※消費者の約8割は、食品の生産段階に不安を感じています [内閣府調査(平成15年9月)より]



安全には気をつけて
いるから大丈夫!

使った農薬や肥料も
記録しています。

GAPの実践



ほんとに大丈夫?

ほ場以外の場所で、
農薬が付着することは無いの?

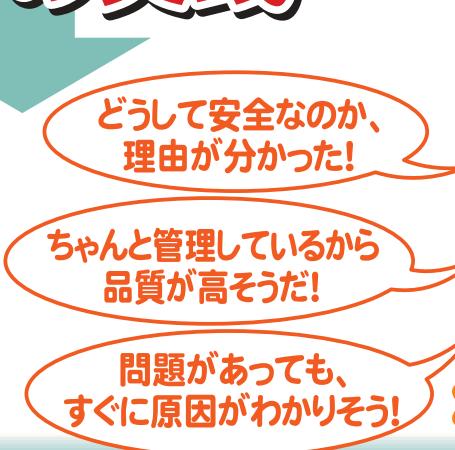
不安

疑問



作業をチェックして
いるから、リスク対策は
万全です!

使った農薬や
肥料だけでなく、
全作業を正確に記録し、
内容を検証しています。



どうして安全なのか、
理由が分かった!

ちゃんと管理しているから
品質が高そうだ!

問題があっても、
すぐに原因がわかりそう!



信頼

安心

どうして安全なのか、理由が説明できることが必要です。

1 リスクを知ろう

- 準備から出荷までのすべての作業を点検し、起きた「かも知れない」リスクを知れば、どんな対策をすれば良いのかが見えてきます。
- 気付いたことを書き出してみましょう。

リスクは
知っている
つもりだけど…



思いもよらなかった場面に重大なリスクが隠されています。
自分の認識不足で、周囲に不利益を与えることもあります。

参考

・ 残留農薬 ・ 事故の事例

- ↓保健所の検査でY農協が出荷したパセリから基準値を超える農薬を検出。
 - ↓Y農協は即日パセリの出荷をすべて停止、6日前の出荷分から全量自主回収。
 - ↓全出荷者138名を対象に自主検査を実施した結果、15名のパセリから基準値を超えるフェニトロチオン(適用外農薬)が検出された。
 - ↓C県が15名に対し農薬の使用や保管状況等を調査したが、使用は認められなかった。
- ◆器具の洗浄不足が原因と判明 → チェックの徹底により改善

!* 生産活動のあらゆる場面にリスクがあります

農薬残留

【原因】ドリフト、適用外使用、散布器具・防護服からの付着…など

異物・異品種混入

【原因】コンバイン未清掃、袋詰め時のタバコやゴミの混入…など

病原微生物

【原因】土壌からの汚染、手や敷物・コンテナからの汚染…など

環境への負荷

【原因】濁水や農薬の流出、過剰施肥…など

農薬残留のリスクを例に挙げてみましょう。

現 状

農機具小屋に作業道具と農薬や防除器具・防護服と一緒に置いている。

作業道具や防除器具・防護服から農産物に農薬が付着するかもしれない!



改 善

●農薬や防除器具・防護服は専用の物置に鍵をかけて保管することにした。

●また防除器具は使用後に必ず洗浄することにした。
(洗浄日も記帳)

農産物と農薬を隔離して、リスクを回避



2 リスク対策をたてよう

- 起きた「かも知れない」リスクが見つかれば、次は対策をたてましょう。
- 「出来ることから」では無く、「大事なことから」やるのがポイントです。
- リスク対策を一覧表にして、チェックリストを作りましょう。



どうして
チェックリストが
必要ななの?

リスク対策を確実に
実践し、またそれを
証明するためです



3 適切な農作業を実践しよう

- チェックリストはいつでも確認できる場所に置いておきましょう。
- どんなことでも気づいたがあれば、書き込みましょう。

【チェックリストの記入例(米)】

生産工程	管理点(実践方法)	チェック欄 記入日	改善策・改善予定
準備	今作の栽培基準を読む。	<input type="checkbox"/> 3月28日	
育苗	種子を更新する。また、種子の保証票を保管する。	<input type="checkbox"/> 4月20日	JJA購入苗を使用し、伝票を保管している。
栽培管理	肥料は施肥基準等に基づいて適正な量・方法で施用する。	<input type="checkbox"/> 7月5日	穂肥が多く倒伏したため 次作は25kgにする。 7/5 穂肥 30kg
収穫	収穫の際にはほ場を見て、適期収穫を行う。	<input checked="" type="checkbox"/> 9月10日	農道側からだけでなく、排水路側からもほ場を確認する。
全般	肥料や農薬の使用状況など栽培履歴の記帳を行い、購入伝票とともに保管する。	<input type="checkbox"/> 10月25日	

作業が完了する
たびにチェック
しましょう!

実施状況なども記録して
おけば、後の点検に役立つ
でしょう。

資材の施用日や量などを
記録しても良いでしょう。

実施できなかった項目には
改善策などを記入して、
次作に役立てましょう。

4 農作業を振り返りましょう

- 適正な農作業が確実に実践できたかどうか、またリスク対策に問題が無かったのかどうかを検証することが大切です。

- すべて点検できたら、①に戻ってリスクを再確認しましょう。
- ①から④の手順を繰り返すことで、リスクを確実に回避できます。

GAPの手順

GAPをはじめましょう。

できなかつたことがあれば、その理由を考えましょう。それがより良い農業への第一歩です。

- すべての作業手順や道具・資材の管理を再点検してリスクを知る。

問題を見つける

- 農作業を振り返って記録を点検し、問題が無かったかどうか検証する。



①から④の手順を繰り返すことで作業の質と効率は確実に向上します

- チェックリストを確認しながら農作業を行い作業内容を記録。

普及指導員や営農指導員の意見を聞いて、生産組織などでも話し合いましょう。

- リスク回避のための対策をたてる。
↓
チェックリストを作る

★品質の向上 ★取引先や消費者の信頼確保

安 定 取 引

GAPに取り組んでも危害や事故は起こるかもしれません。しかしリスクを知って対策をとっていれば、どの作業に問題があったのか、何を改善すれば良いのか、すぐに判断できます。問題の原因究明と解決を早く・確実にすることで、消費者や取引先からの信頼は保たれます。

取引先や消費者に信頼される生産者を目指してがんばりましょう!!

滋賀県農政水産部農業経営課 〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL.077-528-3891 FAX.077-528-4882 <http://www.pref.shiga.jp/g/nosan/>



この印刷物は古紙パルプを配合しています。